

たなか たつあき
田中 辰明

お茶の水女子大学名誉教授
工学博士



建築仕上げ技術の未来像

建築仕上げ工事は、建物の美観・耐久性・居住性を左右する重要な工程であり、左官や塗装、内装など多様な専門技術を要する分野である。しかし現在、少子高齢化や若者の建設業離れにより、熟練職人の減少が深刻化している。とくに技能の継承が難しくなっており、品質や納期、建築文化への影響も懸念される。

このような状況に対応するため、技術継承と技術革新の共存が求められている。近年は、ICTやロボティクスの導入が進み、塗装ロボットや自動左官機などにより、一定の作業の効率化や精度向上が可能となっている。これにより人手不足の解消や安全性の向上が期待される。

また、BIMやARといったデジタル技術の発展により、設計・施工の可視化や職人の早期関与が可能になり、若手育成の教材としての活用も進んでいる。さらに、持続可能な建築の観点から自然素材や環境配慮型仕上げ材の需要が増しており、それに対応できる新たな職人像の形成も求められている。

今後は、伝統技術の価値を再認識しつつ現代技術と融合させることで、より柔軟で持続可能な仕上げ工事の形が築かれていく。若者が魅力を感じられる職場環境の整備と、「仕上げる」仕事の誇りを次世代へつなぐ努力が、いま必要とされている。

